

公益財団法人8020推進財団
平成27年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名：仙台市震災復興計画（5か年）期間における沿岸被災地の幼児歯科保健の現状と課題

2. 申請者名：一般社団法人 仙台歯科医師会

代表者名 駒形 守俊

担当者名 平田 政嗣

3. 実施組織：（一社）仙台歯科医師会・仙台市・（一社）宮城県歯科衛生士会・
歯と口の健康づくりネットワーク会議・東北大学

4. 事業の概要

甚大な被害となった東日本大震災から4年が経過した。仙台市の震災復興計画(5か年)も最後の年を迎えている。沿岸被災地において発災当時は幼児のむし歯や歯肉炎の増加が報告されている。現在、それらは表面的には落ち着きつつあるが、内在する問題が解消したとは言えない。

仙台歯科医師会では関連団体と協働し、発災の平成23年から現在まで継続して被災沿岸部の幼稚園・保育所を訪問し、歯科保健活動と聞き取り調査を行ってきた。本年度は発災時に生まれた子供たちが園児となっている年度でもある。そこで、震災復興計画の纏めの年度としてこれまでの活動の分析を行いたい。そして問題点と課題を抽出し、今後の歯科保健活動を実施するための布石とすることを目的とする。また、今後同様の事態が発生した際の情報の一つとなれば幸甚である。

5. 事業の内容

1. 被災沿岸部の幼稚園・保育所を選定し訪問歯科保健活動を実施した。
2. これまでに実施した避難所・仮設住宅への歯科保健活動を分析し、問題点を抽出・検討した。
3. 現在仙台市で医科歯科多職種連携モデルとして展開している「3歳児カリエスフリー85 プロジェクト」、「妊婦歯科健診」などの事業と連携した歯科保健活動となることも目標の一つとする。

6. 実施後の評価（今後の課題）

・震災後、特に沿岸被災地を中心として増加した幼児のう蝕の顕著な増加がみられた。震災後5年を経て、収束しつつあるものの、回復には数年を要し、回復をサポートする歯科保健啓発活動が必要である。また、区役所家庭健康課との協働活動やその他の団体との連携もとれていることは、今後の啓発活動の横の広がりが期待できるであろう。

・実施にあたっては、園児たちにより効果的になるように、時間的な配分や内容を吟味することが必要である。また、今後は嘱託医とも積極的に連携しつつ情報発信を効果的にかつ継続的にできるような仕組みを作っていく必要があると思われる。

・平成26年度より仙台市では「3歳児カリエスフリー85プロジェクト」を展開している。この事業は医科歯科連携を軸に多職種連携のもとに、仙台の3歳児のむし歯をなくしてこうという協働事業である。「妊婦歯科健診」とも連携し、各ライフステージを通じて、よりシームレスにシークエンシャルに歯科保健活動が実施できるようになってきている。その中で沿岸被災地への幼児歯科保健活動もそれらの事業を地域から支える活動として位置付けて継続していく所存である。

・仙台市震災復興5か年計画の期間において継続された「沿岸被災地への幼児歯科保健活動」はある一定の効果があったと思われる。一時期増加した幼児のう蝕も収束してきている。しかし、仙台市が全国政令指定都市の中でも、う蝕り患率が高い状況には変わりがない。今回も震災後の食生活習慣や歯磨き習慣の乱れによって、う蝕が増加した事実を忘れることなく、今後の歯科保健活動に繋げていく必要がある。

